

第5部

重点プロジェクト

(地域環境まちづくり行動計画)



1 重点プロジェクトの趣旨

重点プロジェクトは、次の趣旨で策定され、平成 16 年度から行動に移していくものです。

◆ 「地域環境まちづくり行動計画」の一つ

基本計画に定めた内容を具体的実現するため、地域コミュニティにおいて、又は目的別コミュニティにおいて、あるいはその複合型コミュニティにおいて、各々が主体的に他の主体と共働して行動していくための計画である「地域環境まちづくり行動計画」の一つです。

◆ はじめの一步を踏み出せるもの

重点プロジェクトとは、この計画に掲げるビジョンを実現するため、市民主体行政共働、あるいは行政主体市民参加により、計画初年度から具体的な一步を踏み出すものです。

◆ 市民が時間とエネルギーをかけられるもの

市民が、市職員をはじめ関係者と一緒に、自分自身と自分たちの暮らす地域や地球に心を配り、時間とエネルギーを傾けて実行していこうと思うことができる行動計画です。

◆ 多くの市民や事業者の参加が得られるもの

活動内容が広く公表され、環境パートナーシップ組織³⁴が中心となり運営に参加したい人がいれば一緒にでき、活動自体はより多くの市民、事業者が参加できるようなものです。

2 重点プロジェクトの種類と構成

10 の重点プロジェクトがあります。これですべてではなく、計画策定後も、市民（市民団体）や市職員（市）から、新たに提案され、具現化されるものです。

1. 源流域元気プロジェクト
2. 親水プロジェクト
3. 東部丘陵自然公園プロジェクト
4. みどりいっぱいプロジェクト
5. おもむきあるまちなみプロジェクト
6. みんなにやさしい交通プロジェクト
7. エコ生活プロジェクト
8. ごみのないまちプロジェクト
9. コミュニティプロジェクト
10. おまかせ！エコ共育プロジェクト

重点プロジェクトの構成

- 1 ねらいや効果
→「何のために」を示します。
- 2 具体的な進め方
→「何をいつどのように」を示します。
- 3 実施場所
→「どこで」を示します。
- 4 取組主体と関係者の役割
→「誰が誰と何を」を示します。
- 5 備考
→「補足事項」を示します。

³⁴ P.133 第 6 部 1 計画の推進組織を参照のこと。

3

10 の重点プロジェクトの 2024 年のビジョン

10 の重点プロジェクトのねらいが達成された時の 2024 年の日進のビジョンです。ビジョンとは、姿、風景、ありさま、人と人とのつながり、ライフスタイルなどを理想として日進の未来像を描き、想いを表したものです。

- 日進市を流れ下る天白川は美しく、その源である三本木川や岩藤川は眩いばかりに輝いている。
- 天白川だけではなく、街の至る所に飲みたくなるような水と、ずっとそこにいたくなるような情景をたたえた水辺がある。
- 東部丘陵は自然公園として昔と変わらない多様な自然環境を保ち続けている。
- 日々人の目を楽しませる公園や街路樹など都市の緑は、里山の緑と繋がり、生態系を結び付けるだけでなく、地球温暖化防止にも一役買っている。
- 住宅街では、親しみのある街並みが昔と変わらず、人々のコミュニティを守り続けている。
- 人々はマイカー利用を控え、安全な道路を徒歩や自転車で移動し、便利な公共交通機関を使うようになっている。
- 街並みは変わらずとも、人々の生活様式は 20 年前と様変わりし、排水への配慮、省エネルギーなど自然にやさしい生活をしている。
- 街を歩いていても不法投棄や散乱ごみのない美しいまちになっている。
- 人々やその活動は、コミュニティでよくまとまり、活発に情報発信している。
- 自然・環境について学んだり、気づいたりできる楽しいことがたくさん用意されている。

4

10 の重点プロジェクトの内容

次ページ以降に、10 の重点プロジェクトの内容を示します。

源流域元気プロジェクト

1

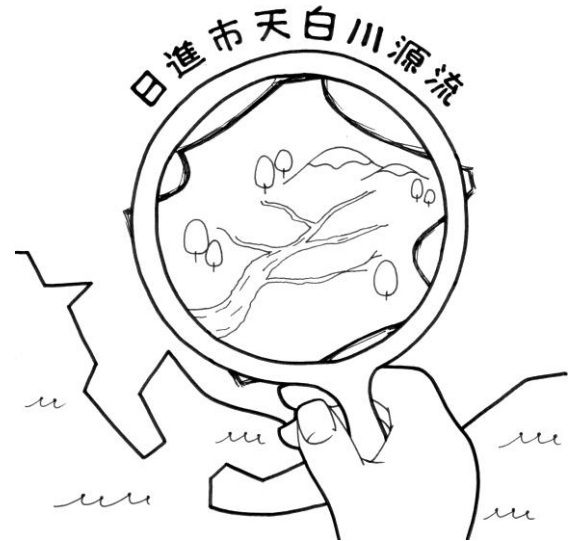
〔何のために？〕

ねらいや効果

「日進市全体が大切な天白川の源流域です」。この少数派の意見が多数派の常識へと転換させていくことをめざしながら、市内の川が源流らしいきれいな川になるように取り組みます。

関連する環境指標（詳細は資料編参照）

川や池などの水質についての満足度



2

〔何をいつどのように？〕

具体的な進め方

注：●は、実施年度を表す。○のないものは実施済みもしくは、実施中のものです。（以下同じ）

□A：市民主体・行政共働 □B：行政主体・市民参加

26-30 年度 31-35 年度

1) 河川愛護活動を育む

① 既に行われている河川愛護活動への参加	□A	●	●	●	●	●
② アダプトプログラム制度の実施と普及	□A	□B	●	●	●	●
③ 河川沿いの緑化木事業の実施	□A	●	●	●	●	●
④ 河川愛護団体への支援や交流企画の開催	□A	●	●	●	●	●

2) 河川・ため池に関する調査を行う

① 家庭・事業所の排水状況の調査	□A	●	●	●	●	●
② 河川・ため池の全体状況調査と定点観測化	□A	□B	●	●	●	●
③ 市の調査を補完する市民による水質調査の実施	□A	●	●	●	●	●

3) 川を知り、川を楽しむ

① 総合的な学習など学校での河川に関する教育の普及	□A	●	●	●	●	●
---------------------------	----	---	---	---	---	---

4) 源流域を元気にするための手法を研究し実践する

① 「源流域元気」の考え方の普及	□A	●	●	●	●	●
② 先進地事例研究と日進市での実践	□A	●	●	●	●	●

5) 水辺の環境を守るための活動の輪を広げる

① 様々な主体による組織の結成、活動（清掃・草刈等）の展開	□A	●	●	●	●	●
② 天白川の環境を考えるための「天白川フォーラム」の開催	□A	□B	●	●	●	●

3 [どこで?] 実施場所

天白川、その他の日進市内のあらゆる水域

4 [誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

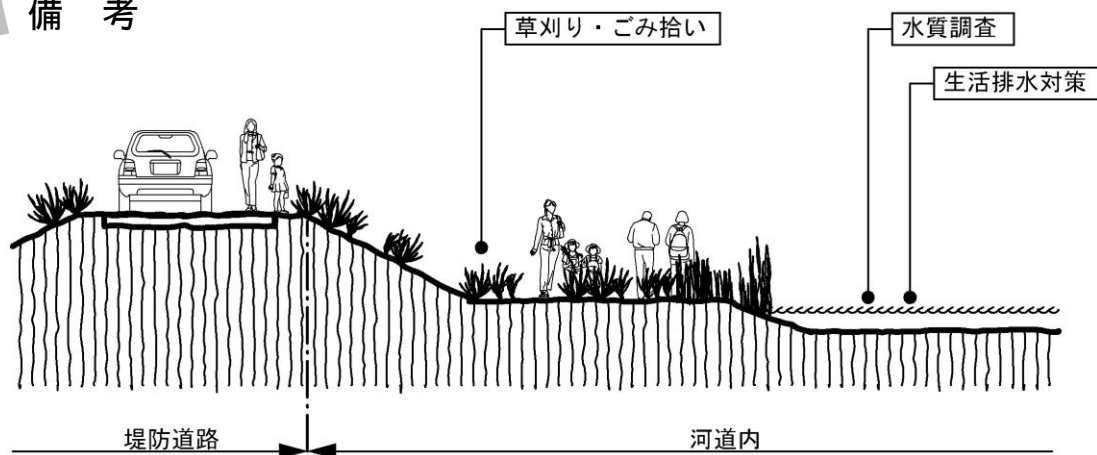
取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織、河川愛護・自然観察など各種活動団体）
市（環境課、産業振興課、土木管理課）

注：全体として市民主体行政共働型プロジェクトは市民団体を先に、行政主体市民参加型プロジェクトは市を先に掲載してあります。各主体内は順不同。以下同じ。

市（行政） <ul style="list-style-type: none"> ◆ アダプトプログラム制度の導入 ◆ 水質調査の継続・充実 ◆ 取組主体への支援 ◆ 関係機関との連絡調整 	市民団体 <ul style="list-style-type: none"> ◆ プロジェクトの推進 ◆ プロジェクトへの参画 	事業者 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 排水への配慮
	市民（滞在者等を含む） <ul style="list-style-type: none"> ◆ 排水への配慮 ◇ 講座や活動への参加 	教育機関 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境学習機会の創出
		市職員 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5 [補足は?] 備考



水辺環境を守るための活動のイメージ

親水プロジェクト

1

[何のために？]

ねらいや効果

水はすべての命を支えています。多くの市民が命を支える水を再認識し、暮らしの中で身近な水辺を愛する気持ちになれる。そんなまちづくり。水辺はスローライフの1シーンとして、暮らしの癒しの場として、もっと魅力的になれると思います。親水基準、水に親しむ基準、そんな基準を創り、水辺のたたずまいをふるさとづくりに活かしていきます。

関連する環境指標 (詳細は資料編参照)

身近に水に親しめる場所があると思う市民の割合



2

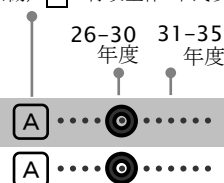
[何をいつどのように？]

具体的な進め方

[A]: 市民主体・行政共働 / [B]: 行政主体・市民参加

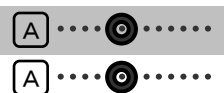
1) 市民による親水基準をつくる

- ① 親水基準の設定と発表
- ② 五つ星などわかりやすい評価と結果の表示の検討



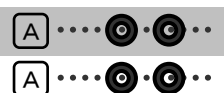
2) 親水度を調べ、水辺情景を選ぶ

- ① 市内水域の親水度調査の実施
- ② 各種水辺情景の選定とわかりやすい評価結果表示によるPR



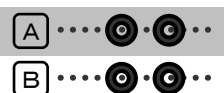
3) 水辺情景をまちづくりへ活かす

- ① 選定箇所の表示看板や印刷物等による水辺情景への関心の醸成
- ② 水辺情景まち歩きなどの環境まちづくりイベントの開催



4) 水とふれあえる場所をつくる

- ① 水遊びができる場所の調査を行う
- ② 安心して水遊びができる場の整備



3

[どこで?] 実施場所

日進市全域の川やため池

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市（環境課、都市計画課、土木管理課）

市（行政）

- ◆ 水辺整備における多自然型工法の推進
- ◆ 親水施設の整備
- ◆ 公共施設整備に伴う水辺環境の創出
- ◆ まちづくりへの活用検討
- ◆ 取組主体への支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進
- ◇ イベントの企画協力

市民（滞在者等を含む）

- ◇ 調査への協力
- ◇ イベントへの参加

事業者

- ◇ 活動への協力

教育機関

- ◇ 専門分野での協力

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考

親水基準（案）

親水基準とは、水質基準と異なり、情緒的・感情的な視点での水辺環境を計る指標です。

<基本視点>

- (1) 水辺が生命にとって大切であること。
- (2) 水辺が人や暮らしにとって、精神的に大切であること。
- (3) 水辺がふるさと日進にとって（財産として）大切であること。

<意識基準>

- (1) 行きたくなる。
- (2) ふるさとの誇りになる。
- (3) 人に伝えたい。
- (4) 大切にしたい。

<評価指標>

- (1) 景色として美しい（借景も含めたロケーション）
- (2) 近づきやすい・過ごしやすい（周辺構造・自然度）
- (3) 水がきれい（透明度）
- (4) 生き物が多様（動植物の多様性・多孔質）
- (5) 子どもの遊び場としての環境（安全性も含む）



▲ 澄み切った水面が広がる鶴思慕池

東部丘陵自然公園プロジェクト

1

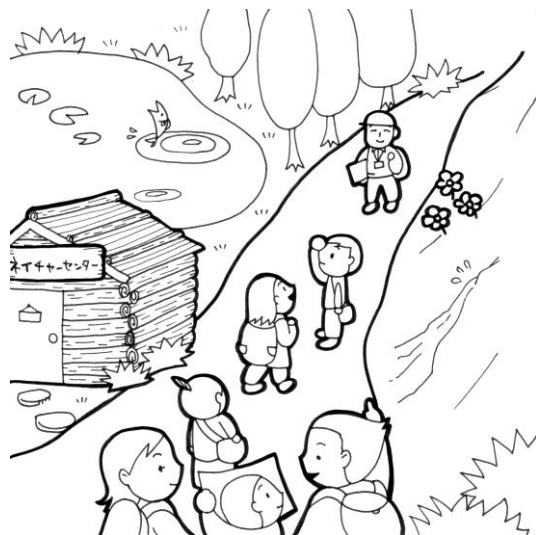
[何のために？]

ねらいや効果

東部丘陵のまとまりのある緑地の多様な自然環境を保全し、人々が自然を体感し、自然の仕組みを学習出来る啓発とコミュニケーションの場とします。次世代に豊かな自然を引き継ぐためにみんなでゆるやかに手作りする継続的な事業として取り組みます。

関連する環境指標（詳細は資料編参照）

身近に緑にふれあえる場所があると思う市民の割合



2

[何をいつどのように？]

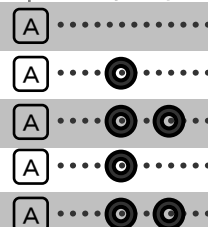
具体的な進め方

1) 東部丘陵の良さを知ってもらう

- ① 東部丘陵ガイドブックの配布
- ② 河川周辺の現状調査（毎木調査など）と報告
- ③ 市民、親子、各学校での自然観察の支援
- ④ 保全のための標語募集
- ⑤ 自然観察会、里山保全活動などの定期的な開催

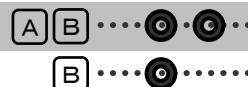
□A：市民主体・行政共働 □B：行政主体・市民参加

26-30 年度 31-35 年度



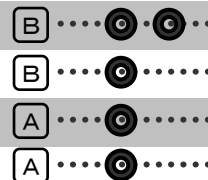
2) 自然公園化するための計画をつくる

- ① 土地所有者現況図の作成と協力依頼
- ② 区域別の必要最小限の施設³⁵整備計画



3) 東部丘陵自然公園を創り育む

- ① 公園用地の確保
- ② 自然公園の整備
- ③ 岩藤新池周回路など「日進自然遊歩道」の市民参加による手作り
- ④ 自然環境の知識を深めながら公園の保全管理をする人達の設置



³⁵環境保全型自然公園として、過度な施設整備は行わず、例えば各区域にはトイレと保全用道具類置き場の設置のみとすること。

3

[どこで?] 実施場所

岩藤町、藤島町、米野木町、三本木町にわたる東部丘陵

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織、里山保全グループ）
市民（自然観察会・講習会・研修会で知識を深めた人たち、地主）
市（環境課、都市計画課）

市（行政）

- ◆ 公園用地の確保
- ◆ 自然公園の整備
- ◆ 取組主体への支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進
- ◇ イベントの企画協力

事業者

- ◇ 活動や基金への協力

教育機関

- ◇ 教育現場の学習機会創出

市民（滞在者等を含む）

- ◆ プロジェクトへの参画
- ◇ 自然観察会などへの参加

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考

東部丘陵の自然

（資料編：自然環境調査の概要参照）



▲東部丘陵の沢



▲メダカとホトケドジョウ



▲サンショウクイ



▲岩藤新池



▲シラタマホシクサ



▲ハッチョウトンボ

みどりいっぱいプロジェクト

1

[何のために?]

ねらいや効果

人や小動物にやさしい緑の環境を豊かにするために、今ある緑を保全し、緑を増やす取り組みを実施します。そのことが、ヒートアイランド防止を積極的に進めることになります。

関連する環境指標（詳細は資料編参照）

緑化推進に関する満足度

2

[何をいつどのように?]

具体的な進め方



□A: 市民主体・行政共働 □B: 行政主体・市民参加

1) イベントなどを通じて緑に対する意識を高める

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|-------|---------|-------|---------|
| ① 残したい樹木・樹林 100 選の実施とPR | A | | 26-30年度 | | 31-35年度 |
| ② 教育機関や自治組織でのフラワーブラボーコンテストの開催のPR | A | | | | |
| ③ オープンガーデンや花いっぱい運動等の推進 | A | | | | |
| ④ 地域に愛される公園づくりとひとづくり | A | | | | |

2) みんなが憩える緑道をつくり育む

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|-------|-------|--|--|
| ① 岩崎川の桜並木から上流にかけての緑道整備 | A | B | | | |
| ② 愛知用水日東支線の緑道整備 | A | B | | | |
| ③ 天白川沿いの散策コースとポケットパークの整備 | B | | | | |
| ④ その他の道路や河川沿いの緑道整備の調査検討 | A | | | | |
| ⑤ アダプトプログラムや公園愛護会による公園、街路樹等の美化活動 | A | | | | |

3) 緑のネットワーク化を進める

- | | | | | | |
|---------------------------|---|-------|-------|--|--|
| ① 経年的な緑被量の調査 | A | | | | |
| ② 一定規模以上の事業所や開発時の緑確保制度の導入 | B | | | | |
| ③ 里山の保全、整備方法の検討 | A | B | | | |

3

[どこで?] 実施場所

日進市全域の家庭、公共用地、事業所のできる所から

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市（環境課、都市計画課、土木管理課）

市（行政）

- ◆ 緑道の整備
- ◆ 緑の保全・緑化のための制度の導入
- ◆ 取組主体へのその他支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進
- ◇ イベントへの参加・協力

市民（滞在者等を含む）

- ◇ 緑化の実践
- ◇ イベントや活動への参加

事業者

- ◇ 緑化の推進
- ◇ イベント・活動への協力

教育機関

- ◇ イベントへの協力

市職員

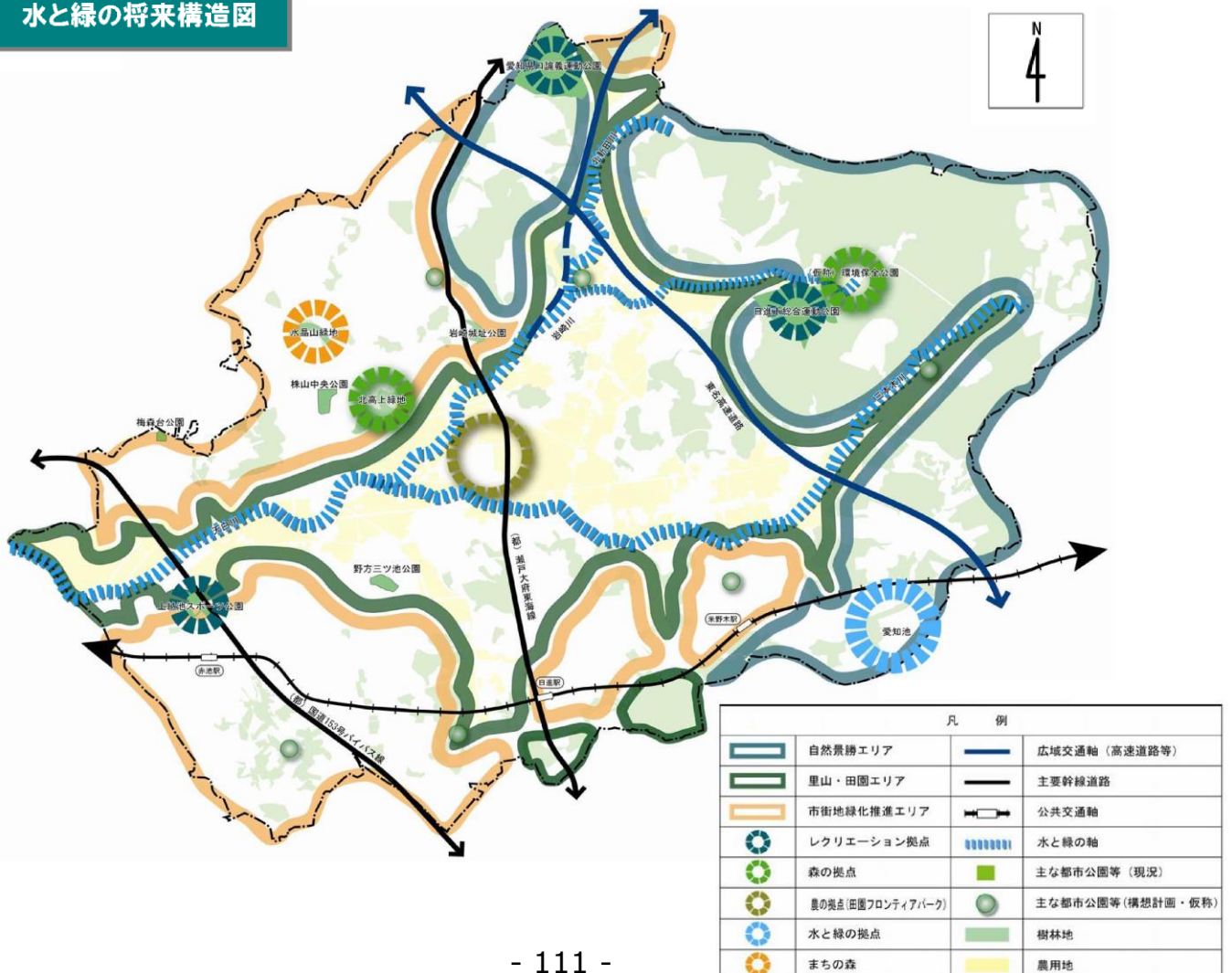
- ◇ 専門分野での支援

注) ◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

備考

水と緑の将来構想図



おもむきあるまちなみプロジェクト

ねらいや効果

おもむきあるまちなみや歴史のある建物を保全することにより、特色のあるまちなみを残します。

関連する環境指標（詳細は資料編参照）

まちなみや道路景観に対する満足度



具体的な進め方

1) 保存に向けた基礎的な調査を行う

- ① 地域住民へのアンケート（意向調査・課題抽出）
- ② 地域住民へのヒアリング（家屋の所有者等）

□A: 市民主体・行政共働/□B: 行政主体・市民参加

26-30 31-35
年度 年度

A diagram of a 1D lattice. It consists of a horizontal line with several dots representing lattice sites. The second dot from the left is enclosed in a square box labeled 'A'. The fifth dot from the left is enclosed in a circle, representing a localized state.

2) おもむきあるまちなみの良さを知ってもらう

- ① まち歩きイベントの開催
- ② 歴史・文化を感じられる建物等百選の実施（市民公募、市民選定）

3) まちなみを保存する方法を検討する

- ① 地域住民を主体とした保存組織の立ち上げ ☐ B ☒ C ☐ D ☐ E
- ② 保存計画の策定 ☐ B ☒ C ☐ D ☐ E

4) 保存のための仕組みを創り育む

- | | | |
|-----------------|----------------------------|--|
| ① まちなみ保存地区の指定 | <input type="checkbox"/> B | <input checked="" type="radio"/> |
| ② 補助制度・建築制限等の決定 | <input type="checkbox"/> B | <input checked="" type="radio"/> |
| ③ まちなみ保存地区のPR | <input type="checkbox"/> A | <input checked="" type="radio"/> |

3

[どこで?] 実施場所

赤池町、岩崎町、浅田町、野方町などの旧集落

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織、地域住民等保存組織）
市民（家屋所有者）
市（都市計画課、生涯学習課）

市（行政）

- ◆ まちなみ保存のための制度の確立と運用
- ◆ 取組主体への支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進

市民（滞在者等を含む）

- ◆ 歴史的な家屋の保存
- ◇ 活動やイベントへの参加

事業者

—

教育機関

- ◇ 専門分野での協力

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考



▲日進のこんな歴史と趣のあるまちなみを（赤池町にて撮影）

▼こんな風に保存・活用していきたい（瀬戸市の旧市街地で撮影）



みんなにやさしい交通プロジェクト

1

〔何のために？〕

ねらいや効果

化石燃料の使用による温室効果ガスや大気汚染物の排出など地球環境に負荷を多く与える交通手段に頼った日常生活を見直し、“みんなにやさしい交通” 手段を選択できるまちづくりをめざします。そのためには、ノーカーデーに象徴される車への依存度を少なくした社会の実現をめざします。

関連する環境指標（詳細は資料編参照）

自転車・歩道による道路の利便性に対する満足度



2

〔何をいつどのように？〕

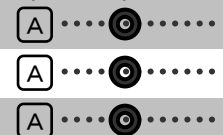
具体的な進め方

1) 歩行者・自転車にとっての安全な歩車道について研究する

- ① 歩車道についての現地調査の実施、「安全マップ」の作成
- ② 市民・利用者を対象としたアンケートの実施
- ③ 安全な歩車道整備についての研究と企画立案

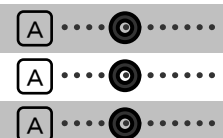
□ A : 市民主体・行政共働 / □ B : 行政主体・市民参加

26-30 年度 31-35 年度



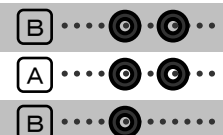
2) 公共交通機関の利用増加について研究する

- ① 公共交通機関についての現地調査の実施
- ② 市民・利用者を対象としたアンケートの実施
- ③ 公共交通機関の利用増加についての研究と企画立案



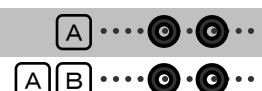
3) 車道や公共交通機関の研究成果を形にし検証する

- ① 市の整備方針に基づく歩車道の整備と公共交通機関の充実
- ② 定期的な二酸化窒素調査による環境面での効果の検証
- ③ みんなにやさしい交通基本計画の策定



4) 自転車の有効利用を進める

- ① 電動アシスト自転車等の有効利用についての調査研究
- ② 自転車貸し出しステーションの整備とPR



3

[どこで?]

実施場所

市内全域、モデル地区

4

[誰が誰と何を?]

取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市（都市計画課、生活安全課、環境課、道路建設課、学校教育課）

市（行政）

- ◆ みんなにやさしい交通
基本計画の策定と実施
- ◆ 取組主体への支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進

事業者

- ◇ 調査・活動への協力

教育機関

- ◇ 交通安全教育の推進
- ◇ 専門分野での協力

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?]

備考

2の具体的進め方の詳細案

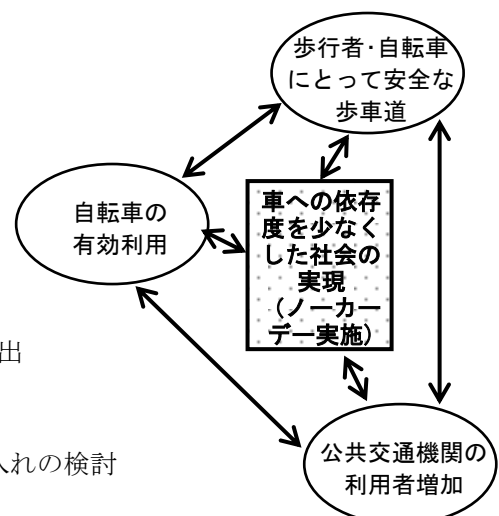
歩車道の整備、公共交通機関の充実、自転車の有効利用は、単独の事業としても大きな社会的意義と環境への負荷を低減する効果を持つものであるが、相互の連携・利便性を高め、三者が有機的につながり機能することにより、単独では得られない大きな効果が期待できる。

<実施場所について>

- ・ 市内を大きく東西南北の4区域に大別し、区域ごとにモデル地区を選定する。
- ・ モデル地区は、歩車道の整備が立ち遅れている地区、歩行者・自転車の交通事故発生頻度の高い地区を優先的に選定する。

<必要な調査研究項目>

- (1) 歩行者・自転車の交通事故の発生頻度の高い道路の抽出
- (2) 各学区の通学路と(1)との重複箇所
- (3) くるりんばす等公共交通機関との機能的な連絡
- (4) くるりんばすの朝・タラッシュ時の地下鉄駅等への乗入れの検討
- (5) 駐輪場の設置場所と整備費用
- (6) 自転車のリユース方法の検討
- (7) ノーカーデーの実施方法の検討
- (8) 交差点での二酸化窒素調査の実施



エコ生活プロジェクト

1

[何のために？]

ねらいや効果

自然と人にやさしい環境を維持、改善、創造するための暮らし方を提案し、体験の場を提供し、未来につなげます。

関連する環境指標（詳細は資料編参照）

環境にやさしいまちづくりに対する満足度



2

[何をいつどのように？]

具体的な進め方

[A]: 市民主体・行政共働 / [B]: 行政主体・市民参加

1) モデル世帯での省エネを実践する

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| ① 地球温暖化対策モニターの参加呼びかけ | [A] 26-30年度 |
| ② モニター対象の講座・交流会の開催（横のつながりづくり） | [A] 26-30年度 |
| ③ モニターの拡大と省エネのレベルアップ | [A] 26-30年度 |

2) エコ生活虎の巻をつくり広める

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ① エコ生活に関する調査・研究 | [A] 26-30年度 |
| ② エコ生活虎の巻の作成と普及 | [A] 26-30年度 |
| ③ エコ生活カルタの作成と活用 | [A] 26-30年度 |

3) グリーンコンシューマーガイドブックをつくり広める

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| ① ガイドブック作成チームの募集と調査・研究 | [A] 26-30年度 |
| ② 環境配慮店に関する情報収集 | [A] 26-30年度 |
| ③ グリーンコンシューマーガイドブックの作成と普及 | [A] 26-30年度 |

4) エコクッキングを広める

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| ① 体験講座の開催などによるエコクッキングの普及 | [A] 26-30年度 |
|--------------------------|-------------------|

5) エコ生活の普及状況を把握し、エコ生活をさらに広める

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ① エコ生活アンケートの定期的な実施と評価 | [A] 26-30年度 |
| ② さらなるエコ生活の普及方法の検討と実践 | [A] 26-30年度 |

3

[どこで?]

実施場所

日進市全域の各家庭

4

[誰が誰と何を?]

取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
 市民（活動に賛同する市民）
 市（環境課）

市（行政）

- ◆ 全市的アンケートの実施
（市民団体への委託を含む）
- ◆ 取組主体への支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進
- ◇ イベントの企画協力

事業者

- ◇ 環境配慮商品販売の充実
- ◇ 活動への協力

教育機関

- ◇ 専門分野での協力

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?]

備考



▲ にっしんエコフェスタの様子



▲ 環境講座の様子

ごみのないまちプロジェクト



[何のために?]

ねらいや効果



日常生活から発生する廃棄物等の抑制や再使用・再生利用の推進など、環境への負荷が少ない循環型社会とともに、散乱ごみがなく、きれいな川が流れる美しいまちをめざします。

関連する環境指標

(詳細は資料編参照)

ごみ処理等の環境対策に対する満足度



▲日進市ごみ減量等啓発用ロゴマーク



[何をいつどのように?]

具体的な進め方

□A: 市民主体・行政共働 □B: 行政主体・市民参加

1) 排出されるごみを減らす

① マイバッグ（エコバッグ）の利用

A ● ● ..

② 過剰包装を減らす

A ● ● ..

③ 生ごみのコンポスト化の実践

A ● ● ..

④ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

A ● ● ..

⑤ 資源回収ステーションの活用

A ● ● ..

2) ごみの排出抑制等仕組みづくりを進める

① 環境配慮店等の仕組みづくりの検討

A B ● ● ..

3) ごみのない美しいまちづくりを進める

① 監視員による不法投棄パトロールを実施する

A B ● ● ..

② 各地区ごとによる、河川、道路、公園などの地域清掃活動

A ● ● ..

③ ペットの糞害防止対策、規制方法の検討

A B ● ● ..

3

[どこで?] 実施場所

日進市全域

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市民
事業者
市（環境課）

市（行政）

- ◆ 取組主体への支援
- ◆ 資源回収ステーションの
拡充
- ◆ 規制・条例等の制定
- ◆ 地域清掃活動への支援

市民団体

- ◆ 地域活動の実施
- ◆ プロジェクトの推進
- ◇ プログラム実施への協力

事業者

- ◆ ごみ削減への配慮
- ◇ 活動への協力

教育機関

- ◇ 専門分野での協力

市民（滞在者等を含む）

- ◆ ライフスタイルの見直し
- ◇ プロジェクトへの参画

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考



▲中央環境センター（エコドーム）

コミュニティプロジェクト

1 [何のために?] ねらいや効果

コミュニティ活動について、取り組んでいる方々から学び、広めることにより、お年寄りから子どもまで人間味あふれる「つながり」をつくります。さらに、コミュニティ活動に全市的に取組み、コミュニティ間ネットワークをつくることにより、全体の環境改善、理想の環境社会をめざします。

関連する環境指標（詳細は資料編参照）

身近な地域活動が活発であると思う市民の割合



2 [何をいつどのように?] 具体的な進め方

□A: 市民主体・行政共働 □B: 行政主体・市民参加

1) コミュニティ活動に取り組む人や活動を知り合う

① 情報が確実に伝わるしくみをつくる	A●.....
② 様々な機会を通じた人や活動との交流の場の創出	A●.....
③ まちかどネットワーク（生涯学習人材情報誌）との連携	A●.....
④ 人や活動（団体）を通じてのネットワークづくり	A●.....

2) コミュニティづくりの人や団体を募る

① 環境寄合による地域住民とのつながりの継続	A●.....
② 家庭教育推進委員会等との継続的な交流と連携	A●.....
③ 地域の誰もが関わり、心に残る催事の計画、運営	A●.....

3) 理想のコミュニティを育む

① 理想のコミュニティのあり方の調査研究	A	B●.....
② 理想のコミュニティづくり	A	B●.....

4) コミュニティ活動への全市的な取組

① コミュニティ活動のための利用しやすい拠点施設づくり	A●.....
② コミュニティ政策の調査研究と制度の確立	A B●.....

3

[どこで?] 実施場所

日進市全域

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市（市民協働課、福祉課、環境課、生涯学習課）

市（行政）

- ◆ 各課横断的なコミュニティ政策の確立
- ◆ コミュニティ施設の整備
- ◆ 取組主体への支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進
- ◇ 団体間相互交流への参加
- ◇ 活動への参加・協力

事業者

- ◇ 活動への参加・協力

教育機関

- ◇ 活動への協力・支援

市民（滞在者等を含む）

- ◇ 活動への参加・協力

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考



▲ 環境寄合の様子（香久山小学校区）



▲ 環境寄合の様子（北小学校区）

おまかせ！エコ共育プロジェクト

1

[何のために？]

ねらいや効果

日進らしい環境共育プログラムを通して、市民全体の環境に対する感性をみがいていきます。

関連する環境指標

(詳細は資料編参照)

環境問題に関心を持ち、自ら学んでいる市民の割合



2

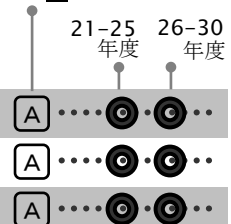
[何をいつどのように？]

具体的な進め方

1) 市民向け環境共育プログラムを進める

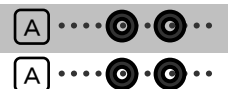
- ① グリーンマップ³⁶づくりの実施
- ② 環境連続講座の企画・実施
- ③ 環境紙芝居の作成と活用

□A: 市民主体・行政共働 □B: 行政主体・市民参加



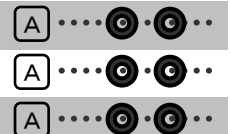
2) 学校向け環境共育プログラムを進める

- ① 児童・生徒向け環境共育プログラムの提供
- ② 学校教員向け環境共育実践講座の実施



3) プログラムの開発と人材の発掘・育成を進める

- ① 各種環境分野の達人・名人の発掘と環境人材バンク化
- ② 地域の資源を活かした環境共育プログラムの研究と開発
- ③ 市内外の環境共育プログラム提供者ネットワークづくり



▲ 世界共通のグリーンマップアイコン（絵記号）の例

³⁶地域の人達によって作られた環境情報地図。世界共通のアイコンがある。身近な地域の宝ものや問題点を地図にすることで、コミュニティを持続させるための問題意識と行動力を育む。

3

[どこで?] 実施場所

小学校区、学校、幼稚園・保育園

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市民（環境の達人・名人）
教育機関（学校・教育委員会）
市（環境課、都市計画課、学校教育課、生涯学習課）

市（行政）

- ◆ 環境連続講座の継続開催（市民団体への委託を含む）
- ◆ 学校との連絡・調整
- ◆ 取組主体への支援

市民団体

- ◆ プロジェクトの推進
- ◇ プログラム実施への協力

事業者

- ◇ 活動への協力

教育機関

- ◆ 環境共育と研修の実施
- ◇ 地域等の外部講師の活用

市民（滞在者等を含む）

- ◆ プロジェクトへの参画
- ◇ 講座や活動への参加

市職員

- ◇ 専門分野での支援

注）◆：取組主体としての役割、◇：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考

参加型の環境共育プログラム（例）

●動物サミット&地球サミット

参加児童がいろいろな役になりきって、環境問題について討議するプログラム。実施する場においての留意点、実際の進め方について提示します。（低学年「動物サミット」高学年「地球サミット」）

●環境のメガネをかけて、まち探検！

環境にいいもの・悪いもの・素敵なものなどを探しながら校区を歩き、アイコンを使ってグリーンマップを作成するワークショップです。

●エンジョイ・エコクッキング

環境にやさしくて体が元気になるお料理って？ 食へのこだわりと地球へのいたわりを大切にした調理主体のプログラムです。（小学5・6年生の家庭科を想定した実践例）

●出前環境講座プレゼンテーション

各教科学習または総合学習の時間において、依頼があればどの学校にも出かけます。（例：日進市の環境、ゴミの分別、公害問題、環境ホルモン、エネルギー問題、オゾン層破壊、地球温暖化、森林破壊、水不足と食糧危機、飢餓貧困、江戸時代の暮らし、戦争と平和、持続可能な社会など）

5

地域別行動計画

平成 20 年度に検討された小学校区を基本とした 6 つの地区ごとの地域での環境課題とそれに対応する重点的取り組み（行動計画）を示します。

1. 西・赤池小学校区の環境課題と取組

1-1 現況の課題と取組の方向

「水」

- ・天白川にごみや雑草が多いため、活動組織をつくり身近な水辺の清掃活動を行う。効率よく活動できるように清掃範囲や役割分担を定め、他の組織や行政と共働して全市的な活動に広げていく。また、天白川の水質保全を図るため水質調査、流入排水や不法投棄の監視などを行政が行っていくことが求められる。

「緑」

- ・里山の減少が見られるため、開発事業に際し緑地の確保を図る対策が求められる。
- ・公園の適正な維持管理が求められており、地域でも清掃活動を行い協力していく。
- ・農業公園整備や遊休農地の有効利用が求められる。農家と消費者が直結した農作物の供給システムが望まれており、「地産地消」を積極的に実践していく。

「まち」

- ・歩道や自転車道の整備、交通渋滞への対策が求められる。
- ・地域の環境を保全するための、開発規制を強化したまちづくりが求められる。

「ライフスタイル」

- ・ごみの減量やCO₂削減を意識した生活を実践することが望まれる。
- ・越境ごみ、散乱ごみ、犬猫のフン、ごみ不法投棄への対策の検討が求められる。

「コミュニティ」

- ・パトロールや街路灯を増やすなど、地域のなかでの防犯対策が望まれる。
- ・天白川を考えるコミュニティづくりが求められており、まずは行政主導で市民参加の行事を定期的に開催し、意識高揚を図っていく。

「遊びと学び」

- ・学びの場の充実が求められており、地域、学校、行政が連携して地域の環境を考え学べる場をつくっていく。

1-2 本地域の重点プロジェクト

地域の自治組織が主体となって、以下の取組を重点的に進めるものとします。

〔（ ）は関連する重点プロジェクト〕

『天白川をきれいにするプロジェクト』（源流域元気・コミュニティプロジェクト）

- ・草刈りやごみ拾いなどの清掃活動を、分担エリアを設定するなどして、幅広い年齢層の参加や交流

ができる形ですすめる。

- ・地域内での活動内容が確実に伝わるように、回覧板の発行などの仕組みづくりに取り組む。

『環境ごみプロジェクト』（ごみのないまちプロジェクト）

- ・市民全員参加で地域のごみ拾いを実施し、ごみのない美しいまちづくりをすすめる。
- ・犬の糞対策、分別徹底や不法投棄の監視制度、ごみに対する市民意識の向上を働きかけていく。

『安全マッププロジェクト』（みんなにやさしい交通プロジェクト）

- ・地域内道路について危険箇所を明らかにし、信号機などの交通安全施設の整備を働きかけていく。

2. 東小学校区の環境課題と取組

2-1 現況の課題と取組の方向

「水」

- ・きれいな天白川を取り戻すため、生活排水対策、排水流入状況の調査・把握、川の中の清掃と維持管理を行っていく。また、治水面から農地の宅地転用の抑制が求められる。

「緑」

- ・地域に残る里山の保全が求められており、具体的な方法を検討していく。
- ・土砂採取跡地への廃棄物不法投棄の不安があり、対策の検討が求められる。
- ・遊休農地の有効利用が求められており、市民菜園としての利用、収穫物の販売などを検討していく。

「まち」

- ・歩道、自転車道の整備が求められており、市民参加で危険箇所の総点検を行っていく。また、交通安全のため自動車利用を控え、徒歩・自転車の利用に転換していく。
- ・道路渋滞緩和対策、安全対策、大気汚染、騒音対策が求められる。
- ・天白川沿いには桜並木等の散歩道整備が望まれ、遊歩道の管理は地域で行っていく。
- ・藤枝地区には公園が一つもなく、整備が望まれる。

「ライフスタイル」

- ・合成洗剤をやめて、石けんや重曹などを使用し、河川の水質を改善する生活排水対策が求められる。
- ・ごみの分別排出ルール of 徹底、散乱ごみ、犬猫のフン対策が求められる。
- ・ごみの不法投棄防止策の検討が求められる。

「コミュニティ」

- ・道路の散乱ごみ回収や通学路への不審者出没に対する防犯対策が求められており、地区のテーマに沿った地域コミュニティ（活動団体）立ち上げを検討していく。

2-2 本地域の重点プロジェクト

地域の自治組織が主体となって、以下の取組を重点的に進めるものとします。

〔（ ）は関連する重点プロジェクト〕

『河川対策プロジェクト』（源流域元気・みどりいっぱいプロジェクト）

- ・河川の清掃、草刈り、流入排水路の水質測定などの活動に地域として参加していく。

- ・河川沿いの植樹や散策道整備を働きかけていく。

『里山の調査・整備プロジェクト』（東部丘陵自然公園・みどりいっぱいプロジェクト）

- ・地主の理解・協力を得て、里山の保全のための調査や憩いの場の整備を市民で行っていく。

『安全マッププロジェクト』（みんなにやさしい交通プロジェクト）

- ・地域内の道路について、徒歩、自転車で通行してみて危険箇所を明らかにした「安全マップ」の作成に取り組み、歩道、信号機などの交通安全施設の整備を働きかけていく。

3. 北小学校区の環境課題と取組

3-1 現況の課題と取組の方向

「水」

- ・生活排水による水質汚濁や河川内のごみ散乱に対して、公共下水道整備や合併浄化槽設置、清掃や草刈りなどの活動を進める。
- ・河川環境整備のための地域の管理活動が効率よくできるように、行政の取りまとめや関係機関調整、支援が望まれる。

「緑」

- ・希少生物種の保全や農地の保全、地産地消の促進が求められる。
- ・食の安全、地産地消の面から農産物販売所や有機肥料の使用などを検討していく。
- ・小学校が遠く、夏季に日影を得るため街路樹の整備が望まれる。

「まち」

- ・歩道の整備、道路の拡幅が求められており、生活道路を広くするための側溝覆蓋、集落内道路の通過交通を減らすためハンプなど車がとおり抜けしにくくなるような仕掛けの整備を検討していく。
- ・大規模開発に総合的・計画的コントロールが求められる。

「ライフスタイル」

- ・道路沿いの散乱ごみ対策が求められており、地区一斉ごみ拾いを検討していく。
- ・生ごみコンポスト化など、ごみの減量・リサイクルの推進が望まれる。

「コミュニティ」

- ・地域において、環境基本計画の存在が知られておらず、行動に向けて計画の周知が求められる。市民参加で意見交換や行政からの情報伝達も行う機会を検討していく。
- ・地域間でのコミュニケーションを強化し、活動を強化することが求められおり、ごみ拾い等のイベント情報を、学区の回覧以外に広報にも載せ周知を図っていく。

3-2 本地域の重点プロジェクト

地域の自治組織が主体となって、以下の取組を重点的に進めるものとします。

〔（ ）内は関連する重点プロジェクト〕

『川と源流域を大切にするプロジェクト』（源流域元気・東部丘陵自然公園プロジェクト）

- ・河川の清掃、草刈り、堤防のり面への草花植栽などを地域で取り組む。

『市内美化運動プロジェクト』（ごみのないまちプロジェクト）

- ・区域内の幹線道路について、缶・ビンなどの散乱ごみ、自転車などの不法投棄の回収に取り組む。活動は回覧で周知し、地域全員で定期的に実施していく。

『みんなに伝えるプロジェクト』（コミュニティプロジェクト）

- ・地域内の活動の内容や参加の方法を全世帯に周知できるよう、回覧板や口伝えできめ細やかな情報発信を行っていく。
- ・定期的に市民が参加できるイベントを市民スタッフで企画、開催し、その場を借りて情報提供を行っていく。

4. 南・梨の木小学校区の環境課題と取組

4-1 現況の課題と取組の方向

「水」

- ・河川の水質汚濁対策が求められており、公共下水道の整備や合併処理浄化槽の導入のほか、地域による定期的な水質検査を進める。
- ・折戸川について親水整備、水源地の保全が望まれ、折戸の湧水を利用したビオトープ整備への期待も高い。

「緑」

- ・里山保全活動への地域団体、NPO、専門家、企業など幅広い連携、参加が求められおり、折戸川湧水周辺の竹林の整備、街路樹に名札をつけるなどの活動に地域の参加を呼びかけていく。
- ・土地区画整理事業など開発事業における既存緑地を残す方策の検討、公共建築物立地に伴う道路や歩道の緑化が求められる。

「まち」

- ・公園のない地区における公園整備、公園愛護会の活動の拡大が望まれる。
- ・安全な通学路の整備（歩道等）や、通行の確保（段差解消等）が求められており、歩道の危険箇所など気づいたことを行政に伝えやすくする仕組みや、防犯カメラなど、歩道を安全に通行できるような対策を進める。

「ライフスタイル」

- ・排ガス対策のため自動車の利用を減らすことが望まれ、公共交通機関、自転車などの利用を進める。

「コミュニティ」

- ・地域で実施しているごみ拾い活動などを、全市的な活動となるように、行政が支援を行い、一般参加者を増やしていく。

4-2 本地域の重点プロジェクト

地域の自治組織が主体となって、以下の取組を重点的に進めるものとします。

〔（ ）内は関連する重点プロジェクト〕

『折戸川の水と緑のコミュニケーションプロジェクト』（源流域元気・親水プロジェクト）

- ・折戸川を軸に、以下に示す水、緑、環境教育の複合的な取組を行っていく。
- ・市民参加による定期的な水質調査により、現況を把握するとともに水質浄化を図るための家庭内生

活排水対策の普及

- ・河川（天白川、折戸川）における河道、堤防、堤防道路の定期的な清掃活動を地域で取り組む（アダプトプログラムの活用）
- ・ホタルが生息できるような、多様な生態系を有する水辺環境づくり
- ・川沿いの街路樹の管理、周辺の竹林の管理
- ・親水施設の整備（ベンチ、水辺に下りる階段等）に向けた働きかけ
- ・四季の自然観察会など、環境教育の場としての活用。
- ・いろいろな人が参加できるような情報伝達の仕組みづくり

『みどりを守り増やすプロジェクト』（みどりいっぱいプロジェクト）

- ・市街化区域内緑地の保全を図る制度の導入に向けて検討をすすめる。
- ・公園等の植樹を市民の手で行うなど公有地の緑化活動に参画していく。
- ・地区内（蟹甲地区）の公園整備を働きかけていく。
- ・小学校学習林の整備について、地域で継続的に取り組んでいく。

『人と地球にやさしいライフスタイルプロジェクト』（エコ生活・みんなにやさしい交通プロジェクト）

- ・大気汚染防止を図るため、マイカー規制やバス・自転車利用促進などの制度を働きかけていく。
- ・図書館周辺の大気・騒音の調査を地域で行い、結果を公表して対策の必要性を働きかけていく。
- ・打ち水による気候緩和効果の実証に取り組む。

5. 相野山小学校区の環境課題と取組

5-1 現況の課題と取組の方向

「水」

- ・河川水質の保全、生活環境の改善が求められており、公共下水道の整備、河川への汚水流入対策を進める。
- ・砂利流出で河床が上昇しているため、治水面から河川整備が求められる。また、併せて河川の親水整備が望まれる。

「緑」

- ・東部丘陵の開発防止、自然保護を図るため、東部丘陵の公園化にあたって、地域として計画、運営・管理など様々な場面にあたって協力していく。

「まち」

- ・地域の高齢化に伴う、公共交通の利便性の向上が望まれる。
- ・歩道、自転車道の整備が求められており、通学路表示など安心して通行できる自転車道の整備について検討していく。
- ・地域における自動車交通量、渋滞の増加に伴い大気環境保全が求められており、大気汚染の定点観測の実施による実態把握、公表について検討していく。

「ライフスタイル」

- ・東名高速道路や土砂採掘跡地では、ごみの不法投棄防止に向けた監視が求められる。
- ・ごみ収集ステーションの設置個所の確保が困難であり、戸別収集の実施が望まれる。

5-2 本地域の重点プロジェクト

地域の自治組織が主体となって、以下の取組を重点的に進めるものとします。

〔（ ）内は関連する重点プロジェクト〕

『市民参加による東部丘陵自然公園づくりプロジェクト』（東部丘陵自然公園プロジェクト）

- ・東部丘陵自然公園整備に際し、計画づくり、整備、管理運営、イベント開催に全市的な市民参加とともに地域として参加する。特にイベント時には案内役ができるようにしていく。

『岩藤川水遊びプロジェクト』（親水プロジェクト）

- ・岩藤川の水遊び場を地域でつくり、清掃等の維持管理も地域で行っていく。

『五色園エントランスプロムナードプロジェクト』（みどりいっぱいプロジェクト）

- ・五色園西側進入道路への街路樹整備を働きかけ、整備後の維持管理は地域で行っていく。

6. 香久山小学校区の環境課題と取組

6-1 現況の課題と取組の方向

「水」

- ・地域内の河川（水路）の流量が少なく、流量確保が望まれる。
- ・洪水調整池について、空間の有効利用が望まれる。

「緑」

- ・地域内の遊休農地の管理が不十分で、環境面から雑草刈りが求められる。
- ・遊休農地を市民菜園として利用できる方法を検討していく。
- ・街路樹も適切な管理が望まれる。

「まち」

- ・子どもの野外遊び場、遊歩道の整備、まちなみ・景観の整備が望まれる。
- ・交通渋滞の面から、道路の早急な整備が求められる。

「ライフスタイル」

- ・ごみの分別排出の徹底と収集ステーションの整備・管理が求められており、地域でごみ収集場所の管理・清掃、転入者への分別ルールの周知を図っていく。また、ごみ減量への取組と散乱ごみ、犬猫のフン対策も求められる。

「コミュニティ」

- ・公園愛護会の活動により公園がきれいに保たれているが、活動自体が市民に知られていないのが実情であり、活動内容を伝え参加者を増やしていくことが求められる。
- ・地域活動の情報は地域の皆に伝え、周知を図っていくとともに皆が参加できる催事を企画していく。また、昔の遊びの伝承など地域での取組や子どもの野外遊び場の整備が求められている。

6-2 本地域の重点プロジェクト

地域の自治組織が主体となって、以下の取組を重点的に進めるものとします。

〔（ ）内は関連する重点プロジェクト〕

『ふるさとのまつりづくりプロジェクト』（コミュニティプロジェクト）

- ・地域の子ども達のふるさとづくりとなるよう、子ども会などでみこしをつくるなど、みんなが参加できる地域のまつりづくりを行っていく。

『休耕地有効利用プロジェクト』（みどりいっぱいプロジェクト）

- ・区域内における耕作放棄地の実態把握を行う。
- ・土地所有者の意向確認を行い、草刈り等の管理を地域で取り組んでいく。
- ・市民農園として利用できる手法の検討を進めていく。

『植栽帯の美化プロジェクト』（みどりいっぱい・ごみのないまちプロジェクト）

- ・アダプトプログラムや公園愛護会との連携により道路に面する居住者や地域自治組織で道路植栽帯の美化活動を行い、犬の糞やごみの捨てにくい美しいまちにしていく。